



2024年4月25日

会社名 塩野義製薬株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 CEO 手代木 功
(コード番号 4507 東証プライム)
問合せ先 広報部長 京川 吉正
TEL. 06-6209-7885

2024年3月期 配当予想の修正（増配）に関するお知らせ

塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役会長兼社長 CEO：手代木 功、以下「塩野義製薬」または「当社」）は、2024年3月期の期末配当予想について下記の通りとすることを、本日開催の取締役会において決議しましたのでお知らせいたします。

1. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想（2023年5月10日）		75.00円	150.00円
今回修正予想		85.00円	160.00円
当期実績	75.00円		
前期実績（2023年3月期）	60.00円	75.00円	135.00円

2. 配当予想修正の理由

当社グループは、成長投資と株主還元のバランスを取りながら企業価値の最大化を図り、中長期的な利益成長を株主の皆さまに、実感していただける施策を推進しています。配当につきましては、DOE 4%以上を指標に、企業価値の成長に応じて安定的に高めていくことを目指しております。

2023年度には、新たに中期経営計画 STS2030 Revision を公表し、創薬型製薬企業としての強みをさらに進化させるとともに、医薬品の提供にとどまらず、顧客ニーズに応じた、様々なヘルスケアサービスを提供する HaaS 企業へと自らを変革することを目指しています。社会に対して新たな価値を提供し続けていくことで、

患者さまや社会が抱える困りごとの解決に貢献することをビジネスの方向性として掲げ、引き続き、取り組んでまいります。

これまでの成果として、国内医療用医薬品では、COVID-19 治療薬ゾコーバの市場への浸透拡大や、インフルエンザの流行継続によるゾフルーザを中心としたインフルエンザファミリーの販売を拡大してきました。それにより、流行に左右されやすいとされる感染症薬の市場において、複数の治療薬を有することによる感染症ビジネスの安定化を実現し、年間を通じた収益の安定化を図ることができました。今後も必要な患者さまに感染症治療薬を速やかにお届けするために、早期診断・早期治療の実現に資する活動を進めてまいります。

海外事業では、セフィデロコルの自社販売の拡大に加え、パートナーリングを活用した供給国の拡大によって、同薬へのアクセス向上にむけた取り組みが大きく進展いたしました。ゾコーバ、ゾフルーザおよびセフィデロコルはいずれも自社創製品であり、これらの製品供給をグローバルに拡大し、売上の成長を実現することは、STS2030 Revision におけるもっとも重要な取り組みの一つです。引き続き、自社創製品のグローバル展開に注力してまいります。

また、今後の成長ドライバー候補となる複数の開発プロジェクトについても、積極投資の結果として臨床試験のステージアップを実現し、さらなる成長に向けた強固な基盤が構築できたと考えています。

これら取り組みに加えて、英国 ViiV Healthcare Ltd. (以下、ヴィーブ社) による HIV フランチャイズの売上が、ドウベイト、Cabenuva などの新製品を中心に大きく伸長し、ViiV 社から堅調なロイヤリティー収入と配当金を受領しました。HIV フランチャイズにつきましては、長時間作用型製剤である Cabenuva、Apretude の市場浸透が大きく前進しており、中長期的な成長が期待されます。

さらに、当期も前期に引き続き、株主還元強化、資本効率の向上ならびに機動的な資本政策の遂行を図るため、過去最大の自己株式の取得 (10,842,100 株、取得総額約 750 億円) と消却 (1,084 万株、消却前の発行済株式総数に対する割合 3.53%) を実施いたしました。

これらの背景ならびに財務状況、STS2030 の株主還元指標である EPS、DOE、ROE 等を総合的に勘案した結果、前回発表 (2023 年 5 月 10 日) の期末配当予想を、1 株当たり 10 円増配の 85 円に修正することといたしました。これにより、中間配当と合わせた年間の配当金は 1 株当たり 160 円となり、前期と比べて 25 円の増配であり 12 期連続の増配となる予定です。

以 上

[お問合せ先]

塩野義製薬ウェブサイト お問い合わせフォーム :

<https://www.shionogi.com/jp/ja/quest.html#3>